

## 第3回アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会

### 議事要旨

■ 日 時：平成23年1月14日（金）10：00～12：00

■ 場 所：福岡市役所本庁舎15階 1505会議室

■ 出席者：（順不同，敬称略）

委員長	出口 敦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
委員	青 和彦	西部ガス株式会社リビングエネルギー本部リビング営業部部長
	赤司 泰義	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	末廣 香織	九州大学大学院人間環境学研究院准教授
	蜷川 利彦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	橋本 淳	福岡市環境局温暖化対策部長
	（中村 卓也	福岡市環境局温暖化対策部温暖化対策課長 代理）
	永富 伸二	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部長
オブザーバー	橋本 上	九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ長
事務局	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部企業誘致課，日本環境技研（株）	

■ 配付資料：

- ・第3回 アイランドシティ低炭素都市ビジョン検討委員会 次第
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（修正案）
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（案） ※第2回検討委員会配布分
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン （素案）
- ・アイランドシティにおける低炭素型都市ビジョン （作業中・暫定版）
- ・第5 将来像 ー低炭素型ライフスタイルー の作成方針（案）
- ・低炭素化に関する効果の算定方法と算定方針について

■ 議 事：

1. 開会
2. 議事

（1）配布資料の説明

事務局より，各配布資料の説明を行った。

（2）ビジョン骨子（修正案）について

（ビジョンの構成）

- 委 員 等 ・ビジョンの構成については，本日の資料では理念と取組みの後に将来像がくる流れになっているが，先に将来像があり，その後に将来像に向けた取組みがくるという構成もある。
- 委 員 等 ・市民に低炭素型都市という新しい価値観を提起していくためにも，具体的な取組み内容に入る前に，目指すべき将来像を示す必要があると思われる。
- 事 務 局 ・ビジョンの構成としては，第4章までに低炭素型都市の実現に向けた基本的な考え方を示し，それを受けて第5章で将来像を示す流れとなっている。よって，第4章に低炭素型都市の実現に向けた目標等の流れを補う部分を入れ，分かりやすい形で第5章の将来像に繋げていきたい。

- 委員等 ・将来像をどこに位置させるかの議論については、第2章の理念の中に、住民視点の内容として“将来の理想的な暮らしを目指す”を示すことにより、解決するのではないかと。現状の理念では、行政的な目線の内容となっている印象を受ける。

#### (ビジョンの理念)

- 委員等 ・環境性・経済性・快適性のバランスについては、どう考えるのか。
- 事務局 ・3つの指標のバランスをとりながら、民間事業者が事業展開を行い、一般の人が住宅を購入したくなるようなまちづくりを目指している。
- 委員等 ・それらの考え方については、どこかに明記しておいた方がよい。
- 委員等 ・3つの指標のバランスについては、マーケティング戦略の考え方にもよると思われる。例えば、住宅におけるアイランドシティの立地等を考えると、環境意識の高い人の購入が予想されるので、その場合は環境性を全面的にアピールする方向性が考えられる。
- 事務局 ・マーケティング戦略としては、照葉の思想を受け継ぎながら環境部分での付加価値を更に高めたまちづくりを想定しているため、それらの思想に同意して頂ける人を対象と考えている。
- 委員等 ・そうであれば、ビジョンの中で環境性を大きくアピールすることは、マーケティングにおいても有利になることと思われる。
- 委員等 ・少子・高齢化対応についても、もっと目立つように表記する方がよい。次世代、次々世代まで考えたまちづくりを行うのであれば、高齢化した時にも快適に過ごせるまちであることをアピールすることが重要である。
- 委員等 ・理念の初めに、“暮らし”全体を含めた内容として、次世代まで考慮したライフスタイルが大事であることを示しておけば良いのではないかと。
- 委員等 ・住民視点の“暮らし”をキーワードにして、理念を見直す必要がある。

#### (分野別の具体的な取組み)

- 委員等 ・中期の取組みが5年後、長期の取組みが20年後とあるが、中期を5年後、長期を20年後とした理由はあるのか。
- 事務局 ・中期の5年は、取組みの確度が高いものとして10年よりは5年と考えている。長期の20年は、まちづくり完了目標時期の平成30年代後半に合わせて設定している。
- 委員等 ・サステナブルを考える場合、もう少し長い期間の設定も考えられるのではないかと。また、200年住宅等が謳われる時代において、“中期・長期”の言葉はもう少し長い期間で使用されており、中期は5年後よりも20年後あたりのイメージである。
- 委員等 ・“中期・長期”の行政的な定義はあるのか。
- 事務局 ・明確な定義はないが、過去の使用例を見ると、中期計画は5年程度、長期計画は10～20年程度で使用しているようである。行政的にはこれらの言葉の使用方法に問題は無いと思われるが、環境について考える場合にはご指摘のような状況もあるので、表現については検討させて頂きたい。
- 委員等 ・5年と20年の相互関係については、5年計画をその都度見直ししたものが20年計画に繋がるとの認識でよいか。
- 事務局 ・今回のビジョンでは、まちづくりの初期段階において、市民に低炭素型都市の将

- 来像を分かりやすく示すことが目的であるため、行政の実施計画のように、その都度見直していくことは想定していない。
- 委員等 ・将来像を示す時期となると、尚更より長期的な視点が必要になると思われる。サステナブルの視点での検討には、少なくとも50～60年の複数世代に渡る期間が必要である。
- 委員等 ・建築のライフサイクルについても、建設から次世代への引継ぎ方法まで考えることが長期的ビジョンである。
- 事務局 ・アイランドシティにとって、まちづくりの完了予定となる20年後が大きな節目になることは間違いないので、20年後以降まで含めた何かしらの表記を検討させて頂きたい。
- 委員等 ・5年後、20年後、60年後ぐらいのイメージが妥当ではないか。
- 委員等 ・フローとストックの観点から見ると、全体的にフローに偏った内容となっており、ストックとしての視点が足りないと感じる。
- 委員等 ・新しいまちづくりにおいても、60年後までに何を残していくのかを考えることが大切である。
- 委員等 ・一覧表に挙げられている取組み内容はこれで確定なのか。具体的な取組みには色々あると思われるが、ここでは一覧表に挙げられている取組みのみに力点を入れるという印象を受ける。
- 事務局 ・考え方としては、10の取組みの中から3つに絞るというよりも、今取り得る取組み例として3つを挙げている。よって、他にも良い取組みがあれば取り入れていきたい。
- 委員等 ・取組みの一覧表に挙げられているものは「方法」なので、その前段として、それらの「方法」によって実現しようとしている中長期別の目標についての記述が欲しい。
- 委員等 ・具体的取組みについて経済性や快適性が示されていないものがある。快適性について言えば、EVの導入については騒音や排気ガスの削減、環境活動についてはコミュニケーションの向上による安心したまちづくり等が快適性として挙げられるのではないか。
- 委員等 ・環境性・経済性・快適性の3つの指標について、文言だけではその効果レベルが分かりづらいので、定量的な評価があると良い。
- 事務局 ・環境性・経済性・快適性のレベルについては、出来るだけ分かりやすい表現にしたい。
- 委員等 ・住宅・建築物の取組みにある“LCCMの導入”が戸建住宅に限定されている理由はあるのか。
- 事務局 ・国の見通し計画と照らし合わせて設定した。
- 委員等 ・ビジョンの中でLCCMを取り扱うならば、全ての建築を対象とすることが本来の主旨と思われるので、ZEHやZEBのゼロエネルギーの話と区別して考えた方が良い。
- 委員等 ・“木材・リサイクル建材の利用等を推進”という取組みの先進性や快適性について

であるが、木材は、材料としては新しいものではないが、その使い方として、耐火性能や防災性能を踏まえた利用方法は先進的な取組みになるのではないか。また、サステナブルデザイン建築における木材やリサイクル材の活用方法の研究も先進的なことと思われる。快適性については、木材を内装材として利用することで、材料としての暖かみや調湿機能を得られることが挙げられる。

- 委員等 ・地域の取組みとして“風の流れを考慮した建築物等の配置”が挙げられているが、建築物等の配置を考えた場合、風だけではなく採光や太陽光・太陽熱の取り入れも大事であり、それらも含めた記述にした方が良い。
- 委員等 ・EV自動車やEVバスの導入は、車単体として環境負荷を削減する技術的效果に加え、カーシェアリングや効率的なバスの運行システム等のシステム的效果も見込まれるので、そのような視点での区分けも追加で検討してはどうか。
- 委員等 ・環境活動の取組みにある“情報発信の拠点機能の整備”は長期の取組みとなっているが、少しでも早い市民への情報発信が好ましいと思われる。
- 事務局 ・5～10年後の実施を想定して、長期的な取組みとしているが、出来るだけ早い実施が大切なので、取組み時期の変更を検討させて頂きたい。

#### (将来像のイメージ)

- 委員等 ・理想的な将来像をアピールするためのイメージ図と解説用のイメージ図は区別した方が良い。アピール用は分かりやすく1枚でまとめて、解説用は断面図等を利用して別にまとめるのが良い。
- 委員等 ・また、21世紀のまちのイメージを考えた場合、見た目はトトロ型であるが中身はドラえもん型に支えられていると感じている。20世紀の技術は見せる事が重要だったが、段々と新しい技術は外からは見えないものになってきている。その点からすると、アピール用のイメージ図は、より人間味のあるものの方が良いと思われる。
- 委員等 ・つまり、本日の配布資料にあるイメージ図でいうと、パースはよりトトロ的なものになるが、断面図には最新設備が組み込まれているというイメージである。
- 委員等 ・昔とは違うが昔っぽい、緑が多い等の昔のまちが持つ大事な点を受け継いだまちが理想的である。
- 委員等 ・本日の配布資料にある説明用の写真等は本編に入れ込めば良い。

#### (CO<sub>2</sub>削減効果の算定)

- 委員等 ・対策前のCO<sub>2</sub>排出係数は1990年度の値を使用しているが、対策後のCO<sub>2</sub>排出係数は何を使用するのか。設備価格が変動すると同様にCO<sub>2</sub>排出係数も変化するので、それを使用しての削減効果の算定値は参考程度の扱いになってしまう。
- 事務局 ・排出係数に左右されず導入対策のみによる効果を把握するため、対策後についても対策前と同様の1990年度の値を使用することを考えている。それにより、どの対策が効果的なのかが客観的に見えるのではと考えている。
- 委員等 ・第6章の削減効果は数値のみの表記となるのか。数値やグラフだけでは一般の人

- には分かりづらいので、生活面での効果として表現できないのか。
- 事務局 ・イメージとしては、“〇〇対策をすればライフスタイルは〇〇に変わり、〇〇程度の効果があり、その結果まち全体で〇〇程度の効果がある”というような表記とする予定である。
- 委員等 ・削減効果の数値化は必要なのか。
- 事務局 ・アイランドシティでの取組み効果が、国等の取組みレベルと比べてどの程度のものなのかを参考値として示しておきたいと考えている。
- 委員等 ・削減効果の数値イメージはあるのか。
- 事務局 ・明確な目標値として掲げるつもりはないが、国が掲げる目標よりも大きな削減率としたいと思っている。実際には試算を開始してからの検討となる。
- 委員等 ・目標値ではなく削減効果であるならば、少なくとも目標の中では“国の目標を超える”等の文言を記載するべきである。
- 委員等 ・3つの指標のうち、環境性の効果は示されているが、経済性と快適性については示さないのか。
- 事務局 ・快適性については定量的に示すことは難しいが、第5章の将来像のイメージ図の中で、対策をすることによりどのような生活が可能になるかについて表現することにより、その効果をアピールしていきたいと考えている。
- 委員等 ・経済性については、どの程度の効果を想定するのか。
- 委員等 ・経済性の数値化は非常に難しいと思われる。
- 委員等 ・表記方法として、“初期投資は〇割増えるが、〇〇年で回収できる”というような書き方が出来ると良い。
- 事務局 ・また、第6章については、環境性の効果だけでなく、経済性や快適性を含めた取組みによる効果としてまとめてはどうか。
- 事務局 ・投資額が決まっていないこと等を考えると難しいため、経済性の定量的な評価は予定していない。ただし、“イニシャルは増える代わりにランニングで効果がある”程度の定性的な記載は検討したい。
- 委員等 ・取組みによる効果を定量的に示すことが難しいのであれば、敢えて章立てはせず、目標として取り扱ってはどうか。
- 委員等 ・経済性についても、積み上げ計算でどこまで出来るか分からないが、初期投資に対するランニングメリット等が数値化出来ると良い。
- 事務局 ・必要項目を想定すれば算定出来ないことはないと思うが、導入設備の価格変動等もあり、的確な作業は難しい。それよりも、低炭素型都市ビジョンなので、効果の数値化は主な指標である環境性に留め、快適で経済的にも負担が少ないまちであることを定性的に表現していきたいと考えている。
- 委員等 ・削減効果は、個人や建物単位ではなく、まち全体のものを示すのか。
- 事務局 ・個別の効果の積み重ねをして、最終的にはまち全体の効果を示すことを想定している。

#### (その他)

- 委員等 ・ビジョンは一般の人が見るものなので、イメージ図等は分かりやすく最初に見せる工夫も必要と思われる。

- 委員等
  - 委員等
  - 委員等
  - 委員等
  - 委員等
  - 委員等
  - 委員等
  - 事務局
- ・また、事業者を応援するような内容が盛り込まれるとなお良い。
  - ・事業者は事業参画すると多額の広告宣伝費がかかるため、市に情報発信を積極的にやってもらえることは大きな助けになると思われる。
  - ・事業者の立場での先導モデルとは何かを考えると良い。
  - ・“低炭素型都市”という名前が堅い印象を受けるので、“低炭素”の言葉は残すとしても、“低炭素型快適都市”等のキャッチーな名前にしてはどうか。
  - ・初めにキャッチコピーがあり、その後に堅い文が続く形が分かりやすい。
  - ・キャッチコピーは、“グリーンコンパクトシティ”や“低炭素型快適都市”等でも良いのではないか。
  - ・“照葉”の名前は上手いと思う。キャッチーで文字を見れば何となくイメージが来て、興味をそそられるような名前が良い。
  - ・ビジョン作成後、来年度以降の予定はどうなるのか。
  - ・ビジョンについては、記者発表を行い、市のホームページにて公開することを考えている。
  - ・その後、CO<sub>2</sub>ゼロ街区をはじめ、個別の取組みを具体的に検討していく。

以上